

PRESTO W50

100Lのガラス反応容器で +20 °C から +100 °C間を加熱運転

目的

このケーススタディーでは100Lガラス反応容器と接続されたPRESTO W50 の加熱能力試験を行います。このPRESTO W50 と反応容器は2m長のメタルチューブ2本を介して接続されており、+20°Cから+100°Cまで加熱するよう設定されています。

使用環境

室温	+20 °C
湿度	45%
電圧	400 V / 50 Hz

試験環境

ユラボ装置	PRESTO W50
冷却能力	+20 °C 7.5 kW 0 °C 6.5 kW -20 °C 3.0 kW
加熱能力	6 kW
帯域制限	無し
流圧	0.5 bar
バスリキッド	サーマルHL60
反応容器	100Lガラス反応容器 (ブヒグラス) (サーマルHL60 80L入)
ジャケット容器	30 L
温度制御	外部制御(ICC)

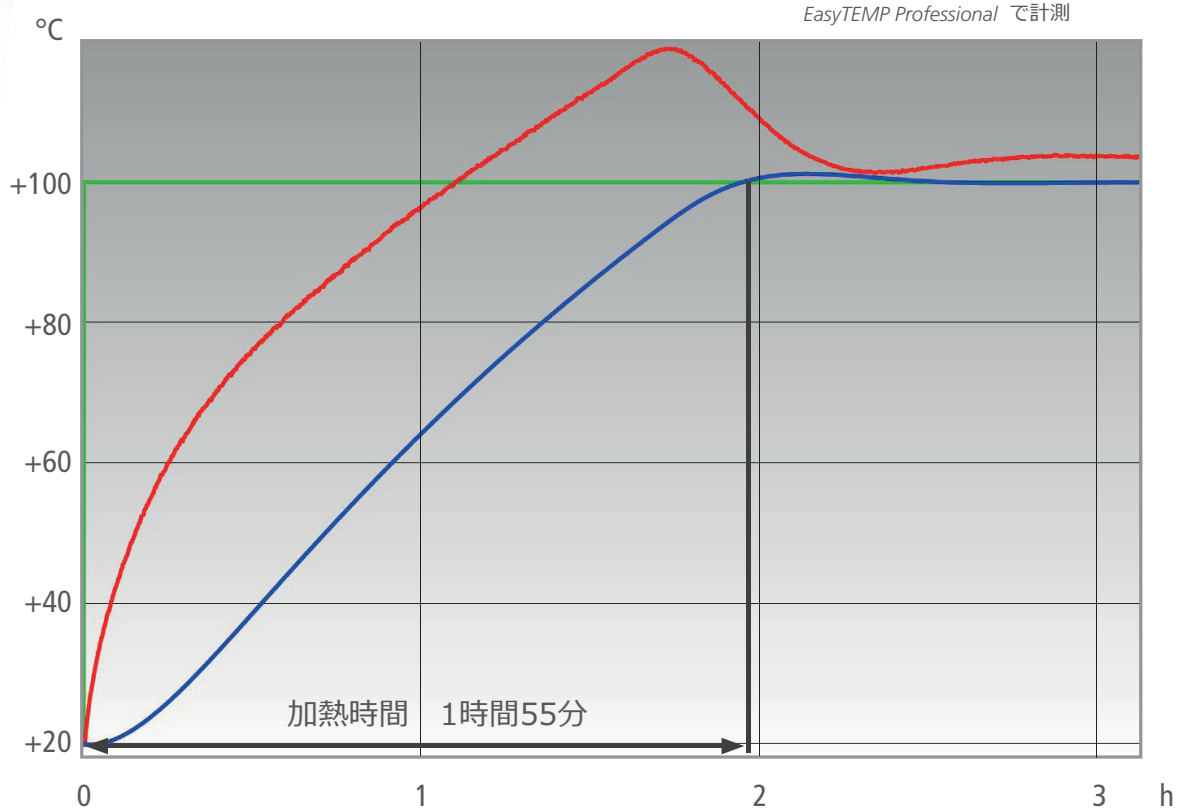
制御パラメーター

Xp	0.2 K
Tn	695 s
Tv	85 s
Xpu	15 K



試験結果

PRESTO W50は設定上限温度を超えずに+20℃から+100℃まで1時間55分で到達。



- 設定温度
- 反応容器内温度
- ジャケット温度

特徴

弊社のチューブアダプターをご使用いただければチューブがよじれることはありません。



特徴

PTFEコーティングされたPt100センサーも使用可能。

